

当初は「基礎理科」の授業の中で、冬の1学期を丸々使って、1人の科学者について図書館を使ってとことん調べ、何冊もの本や雑誌記事やインターネットから10ページ以上あるレポートにまとめ、全員の前でその人物になりきって、自分の人生や業績を発表するというものでした。「知の探検隊」と変わった今では、1年間を通してリサーチやプレゼンのスキルを学ぶことになり、教科も理科から飛び出して、生活科学、国語、社会とさまざまな教科教員がチームで行うようになり、さらに、プレゼンの部分も情報科の科目との連携を図ることで強化した結果、秋学期にまとめた10ページ以上のレポートが、冬学期にぎゅっと凝縮した10枚のスライドを使った5分間のプレゼンテーションと変身しています。

さらに高校1年10年生の1年間続く必修授業「比較文化」では、生徒一人一人が自分でテーマを設定、研究を重ね、秋から冬にかけては、1人が授業時間を1コマ使ってプレゼン、学年の最後にはレポートにまとめて提出します。SISの名物授業の一つです。学年が最大80名ほどだからできるといえますが、一人一人違うテーマを自分の興味関心で選び、追求する。せっかく調べて考えた、かわいい自分だけのテーマです、それをふさわしい方法で文章にまとめ、さらに効果的に発表する方法を学ぶときも、苦しくてもいろいろと自分で工夫していくようになります。ただ方法を学ぶのでなく、自分の中にある探究心を満足させ、それを人に伝えたい、と思うときに、方法論の学習も生きてくるのだと思います。

高校生で英語レベルが上級の生徒が「やりがいがある」とよく選択している模擬国連(MUN)の授業。文字通り、国連加盟国の代表となった生徒たちは、その国の利害をかけて国際会議に臨むために、会議で問題になりそうな現実社会の抱える様々な問題を

分析し、必要と思われる基礎知識を調べ上げ、その上で、自分の国の立場でどのような議論を組み立てられるか、と準備しています。その際、もはや言語の違

いはひとつの要素に過ぎません。日本語英語どちらの資料でも情報は入手。模擬国連の場合は、アウトプットは英語。例えば京都議定書の批准とCO2排出量の先進国と途上国間のやり取りなど、今国際問題になっている大人にも解決がつかない問題に、真正面から取り組み、いくつかの学校から集まったメンバーで最終的に行われる模擬国連の会議の場では、真剣な議論を重ね、本当に貴重な体験をしてくるようです。(詳しくは最近のインターカルチャの生徒の感想をお読みください)

こうしたハイレベルにまでいたる、様々な教科、学年、言語での調査研究発表の機会、それは、最初は、アメリカの小学校でもよく行う、show & tell程度の試みから始まっていますが、さまざまな授業のいろいろな場面で設けられています。そして、SISに在籍する最長6年間の中で比較文化などの大きなプロジェクトを経て、「何か疑問があったら、質問する」「自分の考えや意見を持って発言する」「自分で調べる」「調べたことは機会をとらえて発表する」ことが普通になってくるのです。つまり、「リサーチや発表は自分は苦手だ」という意識がある生徒でも、「勉強するには、時にリサーチや発表をしなくてはならない、するものだ」という“常識”を植えられているといえるでしょう。ときどき卒業生が遊びに来て感慨しています。「SISの常識って世の中の常識じゃなかったんですね」と。



青山 比呂乃

あおやま ひろの

総合科 / 司書教諭

千里国際学園創立当初からのメンバー。国際基督教大学卒。大学時代のバイリンガル環境経験以外に留学などの経験はない。

日本の小中高ではほとんど見られないリサーチスキル教育の必要性を医学系大学図書館勤務時代に痛感。Co-workerであるアメリカ人司書教諭やOIS教諭の授業での図書館の使い方を学びつつ、学園の中心にとレイアウトされていた図書館をSISの理想とする教育を実現するために役立つものとして育ててきた。またリサーチスキル教育の機会を各教科教員との連携の中で模索してきた結果、2005年度から総合科主任となっている。

司書教諭としては日本語資料を担当し、SISの中高生にリサーチスキルを中心にした授業を行う他、OIS小学生のJSLクラスの為に、紙芝居や絵本の読み聞かせ、ブックトークなども行っている。



千里国際学園 中等部・高等部

〒652-0032 大阪府箕面市小野原西4-4-16

電話 072-727-5070, FAX 072-727-5055

www.senri.ed.jp

admissions@senri.ed.jp

編集長から一言

千里国際学園の図書館とそれを活用したリサーチ・スキルのトレーニングの具体的な紹介です。

リサーチやプレゼンテーションを含むスタディ・スキルを「常識」のレベルまで、図書館をも活用して繰り返し指導している千里国際学園の教育は、アメリカの学校のスキル・トレーニングと共通です。

この報告を通して、日本の学校(SIS)とインター(OIS)が同居するだけでなく、お互いのリソースを生かし、あたかも一つの学校のように運営されているのが分かります。